

株抽出し、植物上にいたマダニを調査した。調査の結果、定点において5種類のチマダニ（フタトゲチマダニ、オオトゲチマダニ、ヒゲナガチマダニ、キチマダニ、ヤスチマダニ）が標識された。季節消長を比較すると、若虫と成虫に関しては秋から春にかけてオオトゲチマダニとヒゲナガチマダニが出現した。冬期はオオトゲチマダニ、夏期にはフタトゲチマダニが優占種であった。全種に共通して幼虫は7～9月に出現した。成虫と若虫について、フタトゲチマダニとオオトゲチマダニの植物上での高さを調べたところ、両種とも40～60cmの高さに分布が集中していた。フタトゲチマダニの場合、この高さは植物の表面積にかかわらず一定である。森らによると、シカ体表上のマダニ類の種組成において、8月はフタトゲチマダニが、2、3月はオオトゲチマダニが優占種である。このことから、両種が植物上で一定の高さに位置することは宿主に寄生するための戦術であると考えられる。

1) 千葉県中央食肉衛生検査所

3. 著書 (抄録)

耐性結核菌 水口康雄：耐性菌感染症の理論と実際（平松編），医療ジャーナル社，110-114，1998

耐性，特に多剤耐性結核菌について解説を行ったものである。多剤耐性結核菌による感染は我が国においても問題となりつつあるが，その発端は欧米における AIDS に合併した集団感染である。その致命率の高さと急速な経過で大きな問題として取り上げられる様になった。

結核菌の耐性化のメカニズムは染色体性遺伝子の突然変異であり，薬剤の標的となる分子が変化することによる。多剤耐性は突然変異の積み重ねによって生じる。本論文では，それぞれの薬剤に対する耐性突然変異について，関係する遺伝子を挙げ，解説を行った。